



筑後川流域クロスロード地域ビジョン

～九州交通網の要衝・先進の快適環境と多彩な魅力を誇る～

『九州交流の都「クロスロード地域」』



筑後川流域クロスロード地域ビジョン 目次

I	筑後川流域クロスロード地域ビジョンの概要	1
1.	ビジョンの目的	
2.	対象地域	
3.	計画期間	
II	クロスロード地域ビジョン策定の必要性	2
1.	生活圏の広域化と人口減少社会への対応	
2.	地域ポテンシャルの発揮	
3.	本格的な都市間競争への対応	
4.	道州制への対応	
III	クロスロード地域の概況	4
1.	地域の自然・地理的状況	
2.	地域の人口	
3.	地域の経済的状況	
IV	クロスロード地域の強み	6
1.	筑後川に育まれた豊かな地域資源	
2.	九州交通網の要衝（九州唯一のクロスポイント）	
3.	自然と都市が共生する優れた住環境	
V	クロスロード地域の課題	9
1.	広域交流機能の不足	
2.	地域イメージの未確立	
3.	地域の一体感の醸成	
VI	クロスロード地域の将来像と重点取り組み	10
1.	目標とする将来像	
2.	目指す地域像（目標実現への3つの柱）	
3.	重点取り組み	
4.	施策体系と当面の取り組みイメージ	
	参考資料	18
	①3市1町の概況	
	②クロスロード地域に関するデータ	

I 筑後川流域クロスロード地域ビジョンの概要

1 ビジョンの目的

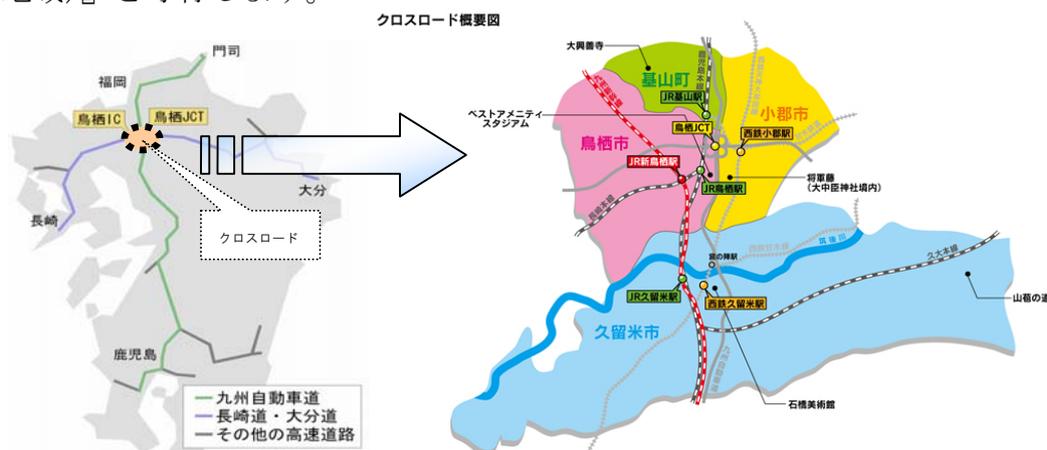
『筑後川流域クロスロード協議会』は、九州の交通ネットワークの要に位置し、共通の生活圏域を有する3市1町（久留米市・鳥栖市・小郡市・基山町）により平成元年に発足しました。以来、文化やスポーツの交流事業を中心に地域住民の広範な連携と交流に取り組んできたところです。

この地域が一体的に連携した時に持つ地域のポテンシャルは非常に高く、協議会が平成18年に出した『県境を越えたクロスロード地域からの提言』では「州都にふさわしい役割を果たすことができる」と結論づけています。このポテンシャルを活かし、この地域をより魅力的な地域としていくためには、まずは、将来を見据えた地域全体の将来像を一緒になって描く必要があります。

『筑後川流域クロスロード地域ビジョン』は、これまでの県境を越えた行政及び住民レベルの様々な取り組み成果を踏まえ、将来の道州制における州都も視野に入れた地域の一体的な発展と九州における個性の確立や、魅力と活力あふれる地域の創造、共通する課題の解決などを目指し、そのために必要な方策をまとめたものです。

2 対象地域

このビジョンは、久留米市・鳥栖市・小郡市・基山町の3市1町を対象地域とします。なお、この地域を『筑後川流域クロスロード地域（略称：クロスロード地域）』と呼称します。



3 計画期間

このビジョンは、平成25年度から平成34年度までの10年間を計画期間とし、必要に応じて随時見直しを行います。

II クロスロード地域ビジョン策定の必要性

1 生活圏の広域化と人口減少社会への対応

高速道路、鉄道等交通網の整備や、高度情報化社会の進展に伴い、社会経済活動の範囲は拡大を続け、住民の生活範囲も市域や町域を越えて拡大しています。クロスロード地域の住民が、日常生活において、県や市町村の行政界を意識して行動することは、まずありません。

一方、わが国の人口は既に減少期に入り、今後一層の少子・高齢化の進展があらゆる行政課題に影響を及ぼしてきます。人口が都市圏に集中する一方で、地方圏では減少に拍車がかかり、各自治体が単独で維持してきた都市機能の確保や住民サービスの充実・向上などが難しい状況になってきています。

そうした厳しい環境下において、各自治体は多様な住民ニーズに対応していくために、地域にある様々な資源や限られた財源を最大限に活用した効率的な行政運営を行っていくことが求められており、生活圏単位での共通の課題への対応や一体的な地域戦略を検討していく必要があります。

2 地域ポテンシャルの発揮

クロスロード地域は、地域を一体的に捉えると、九州内の県庁所在地である中核市と肩を並べるエリアであることが分かります。

平地が多く、他の中核市と比較すると総面積はやや小さいものの、可住地面積は鹿児島市や大分市よりも大きく、人口規模でも大分市よりやや小さいが長崎市、宮崎市よりは大きく、人口減少の度合いも他都市よりゆるやかです。

産業に目を転じると農業産出額、製造品出荷額ともに他都市に比べて高く、また、産業構造のバランスも取れています。これらの特徴は、交通の要衝であることや平地が多いこと、水が豊かにあることなどが背景として考えられます。

この他、医療機関の集積や待機児童数の少なさ、災害発生の少なさなど人が住みたいと思える環境の充実が見られ、九州内の県庁所在地と比較しても遜色のない、むしろ秀でている分野も多いエリアであると言えます。

しかし、このようなポテンシャルを持っているにもかかわらず、これまでこのエリアを一体的に考えたビジョン作りというものはなされていません。この地域の持つポテンシャルを考えれば、市町村のみならず、県をまたいで広域化していく社会構造の変化に対応した地域の一体的なビジョンが必要です。

3 本格的な都市間競争への対応

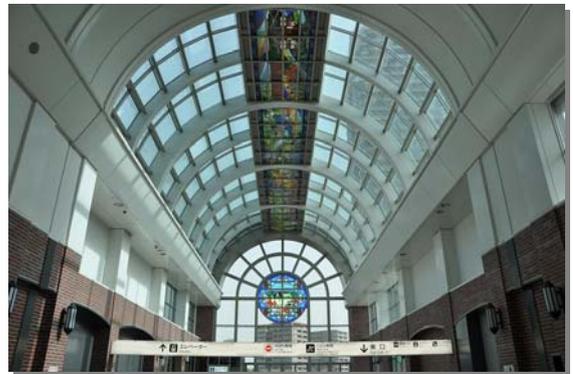
平成23年3月の九州新幹線全線開業に伴い、九州内の人の流れが活発化しています。クロスロード地域には、新鳥栖駅、久留米駅の2つの新幹線駅が設置されました。

しかし、新幹線沿線にある福岡市、熊本市、鹿児島市などの大都市との競争にさらされ、このままではクロスロード地域の駅は通過駅に甘んじてしまう懸念を否定できません。

このような状況下において、クロスロード地域は、九州交通網の要衝という地域特性を活かし、大分市や長崎市などの九州の東西への玄関口としての役割を担うことで九州全域の発展に寄与できると考えられ、九州の交流拠点にふさわしい地域となるよう、一体的な将来戦略を描く必要があります。



新鳥栖駅



久留米駅

4 道州制への対応

現在、再び活発化している「道州制」の議論は、実現すれば「この国のかたち」の大きな転換点となるものです。

クロスロード地域では、国や都道府県の議論に任せるのではなく、県境を越え、基礎自治体自らが「道州制」を考えていこうと平成16年に「道州制勉強会」を立ち上げ議論を重ねてきました。その結果、九州をひとつの道州として考えた場合、クロスロード地域は、九州交通網の要衝という地域特性に加え、可住地面積の広さや都市の活力などの視点から、州都としての役割を担うことで九州全域の発展に寄与できるという結論を得ました。

そこで、将来「道州制」が導入される場合を想定して、クロスロード地域が九州の州都にふさわしい地域となるような将来像を描く必要があります。

Ⅲ クロスロード地域の概況

1 地域の自然・地理的状况

クロスロード地域は、九州の北部、福岡県南西部及び佐賀県東部に位置し、九州経済の中心地である福岡市から約20～40キロメートルの距離にあります。

地域はやや東西に長い凸型の形状となっており、地域面積は369.19平方キロメートルです。

地勢は、筑紫平野を中心に、地域の中央を北東部から西部にかけて九州一の大河・筑後川が貫流し、地域の北側を背振山系・九千部山・基山が、筑後川に沿って南側を東西に耳納山・高良山・明星山などの山々が連なっています。全体として広大な筑紫平野を中心として東西に山々が連なり、平野の中央を筑後川が悠然と流れるという、地域内に山・川・平野が凝縮された豊かな自然を持つ地形が特徴となっています。

福岡県南部及び佐賀県東部に位置する中核的な地域で、九州自動車道と大分・長崎自動車道のクロスポイントを有し、九州内の主要都市を短時間で結ぶほか、国道3号をはじめ8本の国道が通るなど、九州交通網の要衝となっています。

一方、鉄道については、JR鹿児島本線・長崎本線・久大本線、西鉄天神大牟田線・甘木線、第三セクター甘木鉄道が地域の中心部を走っています。さらに、平成23年春に全線開業した九州新幹線では、地域内で久留米と鳥栖の2箇所に駅が設置され、福岡市とも13分前後で行き来できるようになりました。

また、九州新幹線の開業により博多駅での在来線乗り換えが無くなることで、関西、山陽、北九州方面との接続時間や心理的距離感が大きく短縮され、観光やビジネスなど人の往来が活発になってきています。

2 地域の人口

地域の人口は約45万人です。平成22年の国勢調査では、全国的な人口減少の中でクロスロード地域の人口は横ばいになっています。その中でも製造業が集積する鳥栖や新興住宅地を多く抱える小郡はいまだ増加傾向にあります。

一方で、クロスロード地域の人口を年齢別で見ると、15～64歳の人口比率はほぼ全国平均並みですが、15歳未満の割合は全国や九州の平均を上回るとともに、65歳以上の人口比率は九州平均を2.6ポイント下回るなど、年少者が多く、高齢者の割合が比較的低い人口構成となっている

ます。

3 地域の経済的状況

クロスロード地域は、筑後川中下流域の肥沃な土地、豊かな水、温暖な気候に恵まれ、農業地帯として発展してきました。耳納山麓は、全国的にもその名を知られる植木・苗木の一大産地となっています。また、ぶどう・柿等の果実栽培も盛んで、それを活かしたフルーツ観光や豊富な加工品も特色となっています。また、平野部では、稲作を中心として野菜、花きなど多様な生産活動が行われています。農業産出額は全国でも有数の地位を占めていて、久留米市だけで全国14位^{*注}、クロスロード地域の合計では全国10位^{*注}に相当する額で、東京などの首都圏に向けた食料供給基地の役割を果たしています。

また、第2次産業では、久留米市の中核産業であるゴム産業のウェイトは低下していますが、産業力強化のために、久留米ではオフィスアルカディアや新産業団地の開発、バイオテクノロジーをはじめとする戦略的分野の企業、研究機関の集積などに取り組んでいます。鳥栖市においては、交通や物流の結末点という特徴を活かして、製造業や流通業の企業誘致を積極的に進め、佐賀県随一の工業出荷額を維持しながら、より付加価値を高められる産業構造の構築にも取り組んでいます。

第3次産業では、この10年に大きな変化が起きています。かつて福岡県南部、佐賀県東部を商圈とした久留米市中心部の広域商業求心力は大幅に低下してきました。その要因のひとつと言われる福岡市の商業求心力増大は、九州新幹線の開業による博多駅周辺への集客力が増したことで、さらにその影響力が大きくなりました。また、郊外型大型店舗の周辺地域への拡大なども大きな要因です。しかし、一方では地域内の郊外型商業施設やロードサイドの商業施設は賑わいを見せており、特に、鳥栖市のアウトレット施設は九州・山口など各地からの広域的な集客力を見せています。従来からの中心市街地や地域商店街の空洞化という課題と、交通ネットワークを活かした新しい展開とが同時に進んでいるのがこの地域の特徴と言えます。

(注) H18「農業統計」農林水産省より

IV クロスロード地域の強み

1 筑後川に育まれた豊かな地域資源

広大な筑紫平野と九州一の大河筑後川に育まれた肥沃な土壌は、九州でも上位に位置づけられる農業生産をもたらしています。また、美しい景観と豊かな自然は人を育み、優れた芸術家、技術者、企業経営者を生み出し、この地域に多様な産業の集積を形作ってきました。これらの資産を活かしつつ、九州のクロスポイントという地の利も活かし、九州各地や首都圏に向けて様々な生産物を供給しています。

また、豊富な水をたたえる筑後川は、地域住民に食の恵みや安らぎの空間をもたらすとともに、安全でおいしい水を安定的に供給してくれます。

さらに、筑後川を背景として古くから栄えたこのクロスロード地域は、それぞれに独自の歴史や文化を持ち、芸術分野、教育分野、医療分野、伝統産業と新産業、プロスポーツチーム、そして久留米ラーメンに代表される豊富なB級グルメなど、全国的にもその名が知られた地域固有の資源や魅力を数多く抱えています。

【地域の特長】

- 筑後川に育まれた豊かな土壌と豊富な水資源を擁する
 - ・ 農業生産高は九州でもトップクラス
 - ・ 植木・苗木の産地として全国有数
 - ・ 美しい景観、豊かな自然、地域住民の安らぎ空間
 - ・ 安全でおいしい水の安定供給
 - ・ ブリヂストーンや久光製薬など大企業を育んだ土壌
- 九州内では群を抜く可住地面積で、開発しやすい地域形態
- 全国に誇れる地域資源や魅力ある多彩なイベントを多く保有
 - ・ 水天宮総本山、高良大社、梅林寺、大興善寺、七夕神社
 - ・ 久留米城跡、基肄城跡、草野の街並み
 - ・ とんこつラーメン、焼きとり、筑後うどん、鴨料理
 - ・ 酒（日本三大酒どころ）、ワイン



九州歴史資料館



ベストアメニティスタジアム



大興善寺



石橋文化センター

2 九州交通網の要衝（九州唯一のクロスポイント）

人やモノが行き交うところには情報のやり取りが発生します。クロスロード地域は現在の鉄道網、道路網が整備される以前から、薩摩街道と長崎街道が交わるクロスポイントとして、人とともに情報が行き交う場所でした。それを象徴しているのが田代売薬です。江戸時代、対馬藩の飛領であった田代（現在の鳥栖市から基山町にまたがる地域）を拠点として栄えた田代売薬は、富山、大和（奈良）、近江（滋賀）とならんで「四大売薬」と言われています。売薬の行商人達は、九州一円から中国・四国地方の一部まで薬とともに様々な情報を運ぶ役割を果たしていたと考えられます。

薩摩街道・長崎街道が、高速道路網や鉄道網に変わった現代において、クロスロード地域の果たす交流拠点としての役割はますます大きなものになってきています。

クロスロード地域は、福岡市、北九州市、熊本市の3政令指定都市をはじめとして、各県の主要都市を東西・南北走る高速道路や鉄道により短時間で結ぶことができる九州のクロスポイントに位置しています。また、九州経済の中心地であり、アジアとの玄関口ともなっている福岡市に新幹線で13分前後という近距離にあり、経済活動の面からも有利な地理的位置にあります。

福岡空港までも車で30～40分の位置にあり全国の主要都市への移動が容易なことに加え、平成23年春の九州新幹線全線開業により久留米と鳥栖とにそれぞれ新幹線駅を有することで、クロスロード地域への近畿、中国・四国方面からの乗り入れが容易になるとともに、鹿児島方面へのアクセスも格段に向上しました。

このように本地域には、高度に交通インフラが整備されており、九州交通網の要衝と呼ぶにふさわしいエリアとなっています。九州に拠点を置く様々な活動の時間コストを削減できるとともに、複数のアクセス手段の存在は、交通の断絶を回避しやすく、有事対応に強いというメリットもあります。

【地域の特長】

- 九州交通網の要衝にあり、宮崎市を除く九州内の主要都市に概ね90分以内で到着することが可能
- 九州新幹線の開業により、九州の縦貫軸が強化され、近畿・中国方面など九州外からのアクセス利便性が向上

3 自然と都市が共生する優れた住環境

クロスロード地域は、山や川、田園などの豊かな自然に触れ合える環境にありながらも、医療をはじめとして、教育機関、研究機関、商業施設、娯楽施設などの都市機能が充実した地域です。

特に、医療環境は全国トップクラスであり、医療機関や医師数が多いのはもちろん、九州唯一の高度救命救急センター、ドクターヘリの運行、広域小児救急センターの開設など、救急医療体制も充実しています。また、新たながん治療として注目されているがんペプチドワクチン外来窓口が久留米大学病院に開設されるとともに、平成25年春には鳥栖市に九州国際重粒子線がん治療センターの開業が予定され、有数の高度医療地域として更なる飛躍が期待されます。

教育機関としては、4つの大学、2つの短大、ひとつの高専を有し、医学、理工系の学生が多いのが特徴です。また、有名進学校もあり、優秀な学生が多数集まってきます。

また、久留米市、鳥栖市、基山町ではテクノポリス構想に乗って高度技術集積都市づくりに取り組んだ経緯もあり、この地域には久留米リサーチ・パークや久留米高専産学連携テクノセンター等の研究開発支援組織や、九州シンクロトロン光研究センター、産業技術総合研究所九州センター等国内有数の研究機関が存在しています。

この地域は鉄道の交通網が発達している関係で、鉄道駅に近接して住宅地区の開発などが積極的に進められており、地域の都市機能と美しい自然環境が調和する優れた住環境を形成しています。

さらに、西日本大水害以来60年近く大きな災害がなく、災害の少ない地域として、安心して長く住み続けることができる点も大きな特長です。

【地域の特長】

- 豊かな自然環境にありながら、医療をはじめ高度な都市機能を有する災害の少ない快適な生活環境
- 重粒子線がん治療センターやがんペプチドワクチンにより先進的な医療機能がさらに充実
- 有名進学校があり、医学系、理工系を中心に高等教育機関が集積している
- 研究開発支援組織、研究機関などが集積している
- 鉄道駅を拠点に住宅開発が進んでいる

V クロスロード地域の課題

1 広域交流機能の不足

交通の要衝に位置する関係から、日帰り客等は多くいるものの、大規模集客施設やコンベンション施設、宿泊施設などの広域交流施設が脆弱であり、地域資源を活かした連携事業も不十分であることから、東アジア・九州を睨んだ広域交流機能や広域的な事業の充実が求められます。

【地域の課題】

- 宿泊者数や地域内回遊を高めるため、コンベンション機能や宿泊施設、広域的な吸引力を持った事業の充実が必要

2 地域イメージの未確立

クロスロード地域の地域資源は、全国的にも名前が知られているものが多くあり、活用次第で地域の知名度や魅力を大きく向上させる可能性を秘めています。しかし、クロスロード地域としてイメージされるものが確立されておらず、今後の課題となっています。

【地域の課題】

- 魅力ある地域資源を一体的に活用し、地域の知名度向上やPRへの取り組みを効果的に実施することが必要

3 地域の一体感の醸成

これまでの歴史的背景や行政機構が異なっていることから、地域の一体感の醸成を継続的に行っていくことが必要であり、住民意識においても、地域内の他の市町に愛着を感じている人が多くいる一方で、その愛着度合いには温度差があるのが現状です。

【地域の課題】

- 地域住民を対象としたシンポジウムや一体的なイベント開催等、地域住民の一体感を醸成する取り組みが必要

VI 将来像と重点取り組み

1 目標とする将来像

～ 九州交通網の要衝・先進の快適環境と多彩な魅力を誇る ～

『九州交流の都「クロスロード地域」』

ビジョンの目的のところでも述べたように、この地域が一体的に連携した時に持つポテンシャルは非常に高いものがあり、それを活かすことで道州制における州都にふさわしい役割を果たすことができると考えられます。

そこで、まず、クロスロード地域は、九州交通網の要衝として県境を越えた広域連携の更なる進展による地域内住民の住みやすさの向上と地域の発展のため、その抜群の交通利便性を最大限に活用し、九州各地の人・モノ・情報が集まる九州の総合交流拠点を目指します。

また、地域の恵まれた自然環境を守り育てながら、同時に都市機能をより一層充実させていくことにより、豊かな自然環境と優れた都市機能が融合した快適住環境地域を目指します。

さらに、高度医療やバイオテクノロジーの集積をはじめ、歴史や文化、芸術、プロスポーツチーム、B級グルメなど全国的にも名が知られている地域資源を地域として積極的に情報発信を行うことにより、地域外からの交流人口の増加と地域内住民の一体感の醸成を図り、豊富な資源や多彩な魅力を誇る一体感のある地域を目指します。

このように、将来「道州制」が導入される場合を想定して、クロスロード地域が九州の州都にふさわしい地域となるため、目標とする将来像を『九州交流の都「クロスロード地域」』とし、地域が一体となって実現を目指していきます。

2 目指す地域像（目標実現への3つの柱）

(1) 人・モノ・情報が集まる九州の総合交流拠点

九州交通の要衝にある地域特性を有効に活用し、人・モノ・情報が活発に行き交い、地域内外の多様な文化が混ざり合う、九州の総合交流拠点としての役割を担います。



(2) 自然環境と都市機能が高次元で融合した快適住環境地域

地域の美しい自然環境との共存を重視し、医療をはじめとする都市機能をさらに高めることにより、誰もが暮らしたいと思う、調和のとれた先進的な快適環境を形成します。



(3) 豊富な資源や多彩な魅力が集約された吸引力ある地域

地域の資源や魅力を最大限に活用し、クロスロード地域として情報発信を積極的に行うことにより、個性的で多彩な魅力あふれる地域としてのイメージを確立し、多くの人々が訪れたい地域を目指すとともに、地域の一体感を醸成し、さらなる一体的な発展を図ります。



3 重点取り組み

目標とする将来像の実現に向け、クロスロード地域を、目指す地域像として掲げた3つの地域像に近づけるため、次の取り組みを進めていきます。

(1) 人・モノ・情報が集まる九州の総合交流拠点

● 交流拠点機能の充実

前項でも述べたように、本地域は個別に見ると大規模な集客施設やコンベンション施設、宿泊施設などの広域交流施設が充実していないということが課題です。しかし、分野ごとに見てみますと、次ページの表のようにこの地域にも一定の規模で交流拠点としての機能を持った施設があることが分かります。

また今後、大規模なコンベンション開催が可能な（仮称）久留米市総合都市プラザが平成27年には竣工の予定であり、さらに、新幹線の新鳥栖駅周辺には重粒子線がん治療施設の稼動を見込んでの新たな宿泊施設建設も予定されています。

これらの拠点施設をクロスロード地域として一体的に活用し、機能の連携による相互補完を図ることで、これまで各市町が単独では誘致できなかった、より大きなコンベンションやスポーツ大会等の誘致を進めます。

また、交通の拠点性を活かした取り組みも必要です。九州全域につながる

J R九州の新幹線や在来線の各駅、高速道路の各インターチェンジなどを持つ強みを活用することで観光客やビジネス客の流入をより一層進めます。そのための基盤づくりの一つとして、地域内の拠点駅や西日本最大級の基山パーキングエリアなどに九州各地域の情報の収集と発信を行う仕組みの構築を検討します。

表：圏域内の主な交流拠点施設

分野	施設の名称	備考
文化施設	石橋美術館（久留米市）	日本近代洋画の名作群を常設展示
	九州歴史資料館（小郡市）	九州の歴史の貴重な資料を多数収蔵
	久留米市民会館（久留米市）	席数 1,348 席
	鳥栖市民文化会館（鳥栖市）	席数 1,518 席
	小郡市文化会館（小郡市）	席数 628 席
	基山町民会館（基山町）	席数 800 席
スポーツ施設	久留米総合スポーツセンター（久留米市）	体育館、野球場、武道館など
	ベストアメニティスタジアム（鳥栖市）	プロサッカーチーム本拠地
	小郡運動公園（小郡市）	オリンピック規格の野球場など
	基山町総合体育館（基山町）	冷暖房完備のアリーナ

特に、平成23年3月に全線開通した九州新幹線は、地域内に久留米駅、新鳥栖駅という二つの駅を持っており、このメリットを最大限に活かしていかななくてはなりません。九州新幹線の全線開通により九州の南北軸には一層の賑わいが出てきたところですが、クロスロード地域としては、大分市と長崎市を結ぶ九州の東西軸の活性化も重要な課題です。二つの駅は、それぞれ久大本線、長崎本線との接続駅・起点駅でもあり、この二つの駅を連携・活用していくことで、九州の東西の鉄道軸もより一層の活性化を図ることができます。南北の軸と東西の軸のそれぞれが活性化すれば、そのクロスポイントであるこの地域が受ける恩恵は大きなものになります。

そのため、九州新幹線と久大本線、長崎本線との接続利便性の向上を関係機関へ働きかけるとともに、沿線自治体との連携を進めるなどして、東西交流軸の活性化事業に取り組みます。

● 広域交通ネットワークの充実

クロスロード地域は、交通の要衝という特色を活かし、今や九州における一大物流拠点となっています。本地域では、高速道路の鳥栖インターチェンジとJ Rの鳥栖貨物ターミナル駅とが隣接しており、物流拠点として非常に

大きなアドバンテージを持っています。この強みを活かし、九州のみならず、東アジアを視野に入れた広域的・国際的物流拠点として更なる発展を目指します。

物流に関してもコスト削減が大きな課題であり、物流拠点の集約化や共同配送への取り組みが進んでいるところです。そこで、生産地と物流拠点を結ぶ地域内の広域交通ネットワーク整備も重要な課題となります。国道3号のバイパス機能を有する鳥栖久留米道路の整備などクロスロード地域内における高速道路インターチェンジまでの交通アクセス充実を図り、地域全体でこの物流の強みをさらに活かしていきます。

●東アジアをにらんだ取り組みの推進

韓国や中国などの東アジアの国々とクロスロード地域は、国内の他地域と比較すれば極めて短時間で移動可能というアドバンテージがあります。そこで、今後、クロスロード地域として九州のみならず東アジア一帯の人・モノ・情報が集まる拠点を目指します。そのために、地域一体での海外からも誘客できるような大型イベントやコンベンション、大会等の実施を推進するなどの取り組みを進めていきます。

(2) 自然環境と都市機能が高次元で融合した快適生活環境地域

●快適生活環境の充実

クロスロード地域は県境をまたいではいるものの生活圏は同じであり、県境を意識しないまちづくりが求められます。また、本地域は、筑後川流域の豊かな自然に触れ合える環境を持つ一方、教育や医療、福祉、交通ネットワークなどの都市機能も高度に充実しています。そこで、地域内での一体的な都市計画作りの取り組みを進めるなどして、本地域の都市機能をより高めたり、豊かな自然環境を活かし、自然と共生した快適に暮らせる生活環境を形成していくことを目指します。

各都市機能の中でも、特に医療分野には特色があります。この地域には九州で唯一の高度救命救急センターや高度な技術・検査機能を持つ医療機関が集積しており、さらに、久留米大学では先進医療であるがんペプチドワクチンの臨床試験が行われ、鳥栖ではまもなく重粒子線がん治療施設が稼働します。このような最先端の医療技術や施設を活かし、地域にある数多くの医療機関とのネットワーク構築を支援することにより、住民が健康で安心して暮

らせる地域づくりを進めていきます。

また、これまで述べてきたようにこの地域は広域公共交通ネットワークが地域内に縦横に配置された広域交通体系に恵まれた地域です。今後進展する人口減少や少子高齢化社会に対応するため、地域内交通ネットワークの充実を図ることで、更なる利便性の高い住環境の実現を目指します。特に、拠点駅と医療や商業の拠点を結ぶ公共交通の利便性確保やレンタサイクル、カーシェアリングの検討など、都市機能の集積したエリアにおける移動サービスの充実を目指します。

快適な生活環境をもたらすのは、このような都市機能のみでなく、この地域が持つ豊かな自然も重要な要素となります。平野の中央部を流れる筑後川、それを囲む耳納や背振の山々は、市民の憩いの場や、季節季節の自然の恵みをもたらす観光スポットを提供してくれます。しかし、どこにどのような見所があるのか地域の人知らなければ意味がありません。そこで、着地型観光事業などを通じてこれらの素晴らしさをクロスロード地域の住民が共有できるようにします。そのような取り組みを通じて地域内での交流を促進するとともに、この地域の素晴らしさを SNS などを通じて地域外にも発信し、地域外との交流も増やしていきます。

このような取り組みを通じ、地域内外から暮らしてみたいと思われる魅力ある地域作りを目指します。

● 一体的な住民サービスの提供

生活圏の広がりに伴い多様化、広域化、高度化する行政ニーズに対応していくにあたっては、広域的に取り組むべき行政課題についての検討を行う必要があります。クロスロード地域各市町の先進的な取り組みを地域全体に広げたり、共同で行う方が効率的、効果的な事業を連携して行うなど、広域的連携による住民サービスの向上に努めます。

これまでも、図書館の相互利用や地域の安全・安心情報配信などに取り組んできましたが、生活、文化、経済などあらゆる面で結びつきを持つクロスロード地域は、今まで培ってきたお互いの絆を大切に、今まで以上に連携を深めていく必要があります。子育てや医療など地域に密着した生活情報を一体的に発信し、地域全体での情報共有を図るとともに、快適生活環境の圏域外への情報発信も行い、圏域の一体的な発展に取り組んでいきます。

また、これからの行政課題への取り組みには住民の参加協力が欠かせませんが、生活圏が広域化している現状をとらえ、広域的なボランティア活動に対する関心と理解を高め、誰もがボランティア活動に参加しやすい環境づくりに努めます。このような活動に関する情報提供の仕組みを作り、県境を越えた地域内ボランティアの連携を促進します。

(3) 豊富な資源や多彩な魅力が集約された吸引力ある地域

●企業や産業の集積促進

クロスロード地域には、交通利便性などのメリットを活かしてすでに多くの企業や産業が集積しています。一方で、円高あるいは中国・韓国資本の台頭などによって、国内産業は大きな転換期にあります。将来にわたり持続可能な地域づくりを進めるためには、地域の様々な資源を活用して、成長性の高い新たな産業を育成し、地域経済の活力を創出していく必要があります。

地域内には久留米リサーチ・パークや久留米高専産学連携テクノセンター等の研究開発支援組織や、九州シンクロトン光研究センターや産業技術総合研究所九州センター等、国内有数の技術開発機関が存在しています。こうした地域内の優れた研究開発・技術開発機能を活用して、地場企業の技術の高度化を支えるとともに、新たな企業の誘致や産業の創出、地域産業の高度化に向けた取り組みを進めます。

また、医療分野においては、国内初のがんペプチドワクチン外来窓口が開設された久留米大学病院で、テーラーメイドがんペプチドワクチン治療が行われています。さらに、鳥栖市には国内で4番目の重粒子線がん治療施設が平成25年春に開業します。がん病巣にピンポイントで照射可能で、痛みを伴わず副作用も少ないなどの特徴があり、開業に大きな期待が集まっています。このような、大切な生命を守る先端医療分野の充実を図り、高度先端医療地域としてさらなる発展を遂げる事が、地域の強みとして大きな吸引力ともなります。そして、がん治療の先進地として国内のみならず国外に対しても情報発信するとともに、産学官連携による医療や健康に関連する新たな技術開発を進め、医療関連の企業・産業の集積を図ります。

●地域資源や魅力の一体的活用と情報発信

クロスロード地域に多くの人を呼び込み、多様な交流を進めるために、この地域にしかない地域の魅力を発掘して磨き上げ、発信していくことが重要です。

クロスロード地域は筑後川の流域にあって、古くから歴史と文化が育くまれてきました。基山町の国特別史跡基肆城跡や小郡市の国指定小郡官衙遺跡群を始め、地域には数多くの歴史的資源があり、また、九州歴史資料館や有馬記念館、各埋蔵文化財センターなどの展示施設もあります。こうした地域の歴史的資産を一体的に活用し、地域の魅力として守り育てる取り組みを進めます。

また、鳥栖市で開催される世界最大級のクラシック音楽祭であるラ・フォル・ジュルネ音楽祭、久留米市で開催される会派・流派を越えた全国随一の箏曲イベントである賢順記念くるめ全国箏曲祭、あるいは、日本近代洋画の名作群を擁する石橋美術館など、文化・芸術分野の地域資源も豊かです。このような地域の文化・芸術関連のイベントや施設を活用した誘客促進という視点も不可欠です。

さらに、B級グルメで有名な食文化、夏の風物詩となっている筑後川河畔の花火大会など、老若男女を問わず楽しむことができる地域資源も数多く存在します。

こうした魅力ある資源を各市町単独ではなく、クロスロード地域で有機的に結びつけ、地域内の回遊性を高める仕組みを構築するとともに、一体的に情報発信することで、効果的に来域者を増やします。

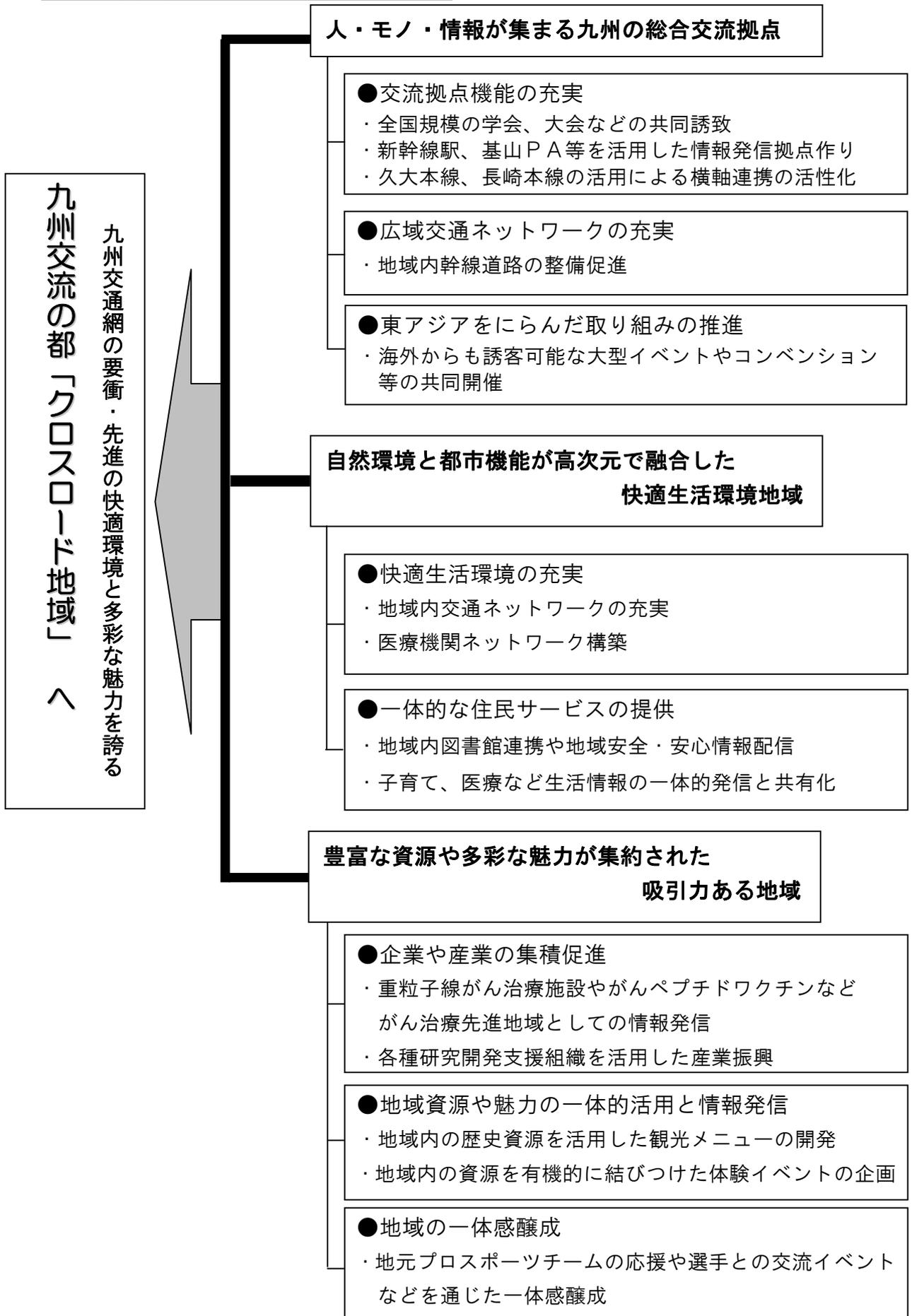
●地域の一体感醸成

日常的な買い物や通勤・通学などで地域内を行き来している地域の住民にとって、行政界の意識は薄いと考えられ、生活実態においては地域は一体化していると考えられます。しかし、それが“クロスロード地域”を意識した一体感という点では希薄であることも事実です。そのような中、共通した精神の拠り所として、スポーツが持つ力は大きいと考えられます。

クロスロード地域には、この地域に本拠地を置くJリーグサガン鳥栖、Vプレミアリーグ久光製薬スプリングスなど全国レベルのプロスポーツチームがあります。これらのプロスポーツを地域として支援し、また、スポーツ教室などを通じた交流を進め、地域の一体感醸成につなげるとともに、地域の活性化や交流人口の拡大につなげていきます。

なお、こうした取り組みの一環として、平成24年8月には、筑後川流域クロスロード協議会として「サガン鳥栖応援宣言」を行い、サガン鳥栖を地域共有の財産として応援し、地域の一体感をさらに高め、地域の発展を目指すこととしました。

4 施策体系と当面の取り組みイメージ



＜参考資料＞① 3市1町の概況（平成24年4月1日現在）

久留米市（人口302,333人、面積229.84km²）

【都市づくりの目標】

水と緑の人間都市
誇りが持てる美しい都市
市民一人ひとりが輝く都市
地力と風格のある都市

久留米市は、九州の北部、福岡県南西部に位置しています。市域は東西32.27キロメートル、南北15.99キロメートルと東西に長い形状を示し、行政面積は229.84平方キロメートル、人口は福岡県下第3位の30万余りです。平成20年4月には、県庁所在地以外では九州で初めて中核市になりました。

福岡県南部の中核都市であり、九州自動車道と大分・長崎自動車道のクロスポイントにも近く、国道3号をはじめとする広域幹線道路網に加え、九州新幹線やJR鹿児島本線、西鉄天神大牟田線などの鉄道網にも恵まれた九州の交通の要衝となっています。

昭和の時代から「ゴムのまち」と言われるようにゴム産業が有名です。しかし、その他にも人口1万人当たりの医師数が全国トップクラスの「医者のまち」、5つの高等教育機関が集積し人口千人当たりの学生数が大阪府に匹敵する「学生のまち」、福岡県内では1位、全国でもトップクラスの農業産出額を誇る「農業のまち」と様々な顔を持っています。また、近年はこれらの特長を生かし、先端医療開発を核としたバイオクラスターを推進しています。

さらに、「久留米ラーメン」「久留米焼き鳥」「筑後うどん」に代表される「B級グルメの聖地」としても有名です。

久留米市は、これらの地域資源を生かしながら、佐賀県東部を含めた県南地域の中核都市として、都市圏全体の一体的な発展の視点を持ちながら「地力と風格のある都市」を目指しています。



筑後川の菜の花



筑後川花火大会

鳥 栖 市

(人口 69,552人、面積 71.73km²)

【将来都市像】

住みたくなるまち 鳥栖 - “鳥栖スタイル” の確立 -
住みよさが実感できるまち
市民協働を推進するまち
九州の拠点となるまち

鳥栖市は佐賀県の東端に位置し、鉄道、国道、高速自動車道の分岐点であり、九州陸路交通の要衝として優れた立地特性はもちろんのこと、北は九千部連山、南は筑後川の満々たる流れを擁する豊かな自然環境、安定した供給が可能な豊富な水資源、温暖な気候で自然災害が少ないなど、恵まれた立地条件の中、これまでに多数の企業が進出し、県内随一の製造品等出荷額を誇っています。

全国的に人口減少が叫ばれる中、これまで着実な人口増加を遂げてきた鳥栖市は、今後20年間においても人口が増えていくことが予測されているところであり、九州における有数の内陸工業都市、交流拠点都市として、今後も発展が期待されています。

平成23年3月、九州新幹線鹿児島ルートが全線開業したことで、これまでの物流に加え、人の交流の面でもより一層の強化が図られ、鳥栖市は大分、佐賀、長崎方面と関西以西の地域との新たな交通拠点となります。

そのような中、現在、新鳥栖駅前に九州国際重粒子線がん治療センターの整備促進を行っているところであり、新鳥栖駅周辺は国内のみならず、アジアを視野に入れた新たな交流拠点として注目されています。



ベストアメニティスタジアム



鳥栖プレミアムアウトレット

小 郡 市

(人口 59,227人、面積 45.50km²)

【将来像】人が輝き、笑顔あふれる快適緑園都市・おごおり
(政策目標)安全で快適な都市機能・都市基盤づくり
豊かな暮らしを支える活力ある産業づくり
ゆとりと潤いに満ちた居住環境づくり
やさしさあふれる健康と福祉づくり
生きる力を育む教育と地域文化づくり
新たな小郡市の地域自治体制づくり

小郡市は、福岡県の南部、筑紫平野の北、佐賀県との県境に位置し、南東を大刀洗町、久留米市に、西は佐賀県、北東は筑紫野市、筑前町にそれぞれ接しており、筑後川と宝満川が合流するデルタ地帯に位置し、東西6km、南北12kmにわたる区域です。

交通は、鉄道が2線あり、南北に走る西鉄天神大牟田線(市内7駅)と東西に横断する甘木鉄道(市内5駅)があります。高速道路は、市の西端を縦断する九州自動車道と、鳥栖インターチェンジでクロスし、市域を横断している大分自動車道があります。また国道500号が甘木鉄道や大分自動車道と併走するように、市域を横断しています。主要地方道は市域の南部を横断する県道鳥栖朝倉線、市域の東部を縦貫する県道久留米筑紫野線、西部を縦貫する県道久留米小郡線があります。

基幹産業は農業でイチゴ、植木のほか洋蘭などの花き栽培が盛んですが、小郡・筑紫野ニュータウンの宅地開発や各種専門学校などがあり活力あふれる街として発展を続けています。

また、市には国指定の小郡官衙遺跡群をはじめ、弥生時代の住居遺跡など多く散在しており、特に大中臣神社には正平14年(1359年)8月、征西将軍懐良親王が大原合戦で負傷し、同神社の御加護で全快、奉納されたと伝えられる県指定天然記念物、樹齢約650年の「将軍藤」があり、市のシンボルとして親しまれています。



媛社(ひめこそ)神社



将軍藤

基 山 町

(人口17,713人、面積 22.12km²)

【まちづくりの目標】

心豊かな人と人との関係づくり・自然と共生したまちの魅力づくり・
みんなが進める協働のまちづくり

身近で豊かな自然を守り受け継ぐまち

豊かな心を育み文化を受け継ぐまち

みんなが集いふれあい助け合うまち

安全に安心して快適に暮らせるまち

暮らしを支える活力あるまち

基山町は、佐賀県の東端に位置し、福岡県筑紫野市、小郡市に隣接しており、佐賀県の東の玄関口となっています。

基山町の約3分の2が丘陵地です。北部には、国の特別史跡基肆城跡があり、また植林発祥の地としても知られる基山(きざん)を主峰とする筑紫の山々が連なっています。南部には、筑紫野平野に向かって開けた丘陵地が続き、秋光川や山下川などの河川が平野部を貫流し、筑後川へと注いでいます。

20~30 km圏内に福岡市、佐賀市、久留米市があり、JR 基山駅から博多駅、久留米駅までは約20分で、通勤には格好の地にあります。このため、福岡都市圏の住宅地として注目され、佐賀県のなかでも人口が増加していましたが、近年、徐々に減少に転じています。

町の西側を鳥栖筑紫野道路、東側を JR 鹿児島本線、それに平行して国道3号、さらにその東側には九州自動車道、南端を大分自動車道が通っており、九州の大動脈の結節点として重要な位置を占めています。

恵まれた自然環境や伝統、文化といった基山町ならではの魅力を生かし、子どもから高齢者までみんなが集い、ふれあい、助け合うなかで、誰もが安全に安心して快適に暮らせる環境を町民と行政が協働してつくり上げ、住み続けたいまち、帰ってきたいまちを目指します。



基山から望む



草スキー

<参考資料>②

筑後川流域クロスロード地域に関するデータ

1 自然・交通網

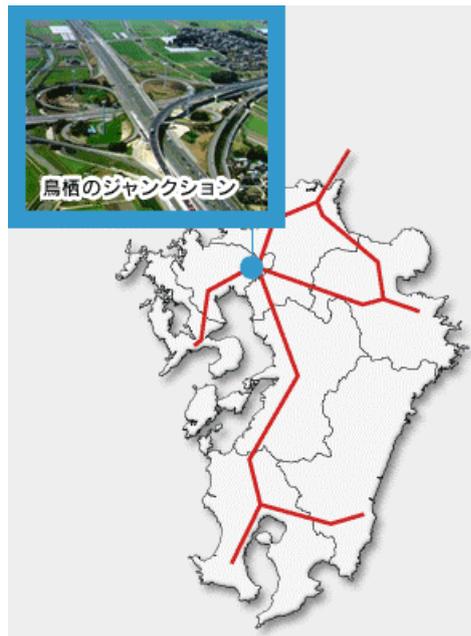
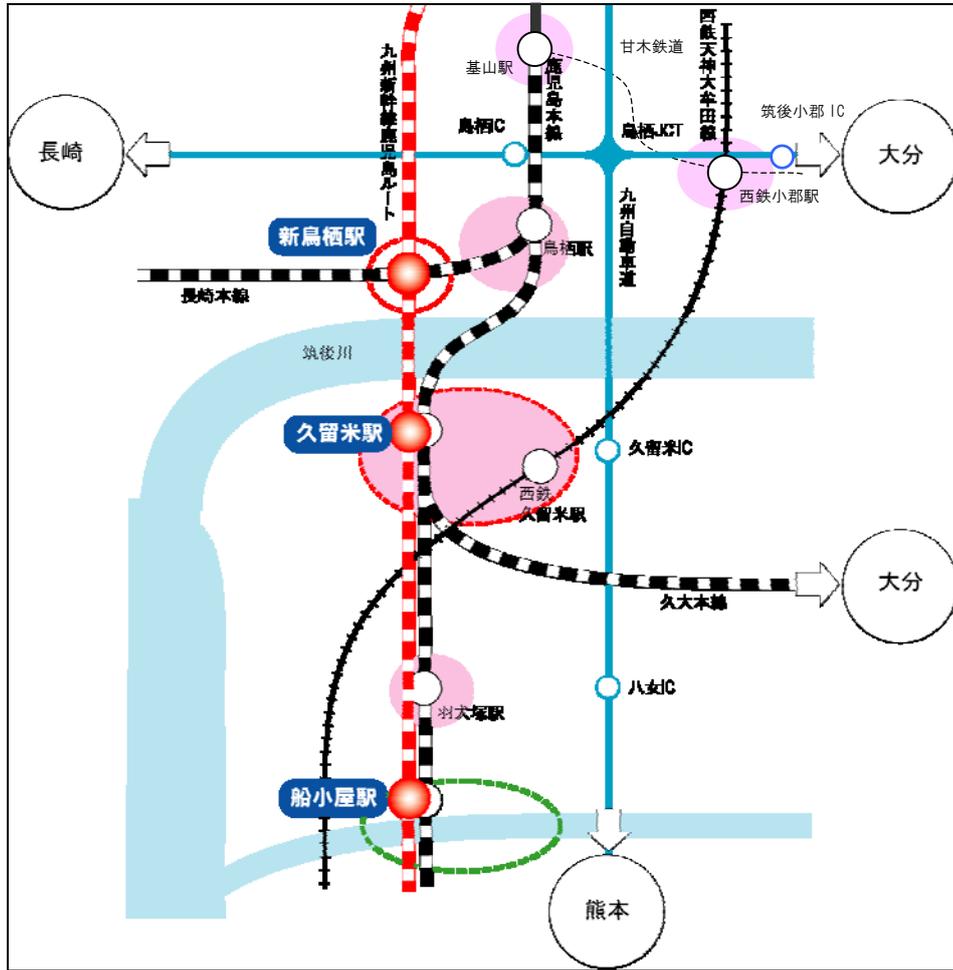
クロスロード地域は、総面積が 369.19 km²、可住地面積率は 80%を越えていて、他の中核市に比較してコンパクトで、開発しやすい形態となっています。

■ 九州各地域の面積 ■ (単位：km²、%)

	総面積	可住地面積*	可住地面積率
クロスロード地域	369.19	298.81	80.9
(久留米)	229.84	193.28	84.1
(鳥 栖)	71.73	47.85	66.7
(小 郡)	45.50	44.07	96.9
(基 山)	22.12	13.61	61.5
長崎市	406.40	184.58	45.4
熊本市	389.53	326.88	83.9
大分市	501.28	243.55	48.6
宮崎市	644.61	291.60	45.2
鹿児島市	547.06	248.94	45.5
九州全域(沖縄除く)	42,178.09	15,298.90	39.3

※ 可住地面積…総面積から林野面積と主要湖沼面積を差引いた面積

■ クロスロード地域の主な交通網 ■



2 人口

クロスロード地域の人口規模は約44万8千人で、現在はほぼ横ばいの状況です。

15歳未満の人口割合は平均よりかなり高く、人口推計では九州の他中核市に比較して減少率が緩やかであると見込まれています。

■ 九州各地域の人口推移 ■ (単位：人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	伸び率
クロスロード地域	429,211	439,369	447,527	447,812	0.1%
(久留米)	302,741	304,884	306,434	302,402	▲1.3%
(鳥 栖)	57,414	60,726	64,723	69,074	6.7%
(小 郡)	50,612	54,583	57,481	58,499	1.8%
(基 山)	18,444	19,176	18,889	17,837	▲5.6%
長崎市	442,699	423,167	455,206	443,766	▲2.5%
熊本市	708,097	720,816	727,978	734,474	0.9%
大分市	446,581	454,424	462,317	474,094	2.5%
宮崎市	384,391	392,178	395,593	400,583	1.3%
鹿児島市	594,430	601,693	604,367	605,846	0.2%
九州(沖縄除く)	13,423,785	13,445,561	13,352,934	13,203,965	▲1.1%
全国	125,570,246	126,925,843	127,767,994	128,057,352	0.2%

(資料) 総務省「国勢調査」 ※ 伸び率は平成17年に対する平成22年の値

■ 九州各地域の人口推計 ■ (単位：人)

	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	伸び率
クロスロード地域	449,737	445,042	437,290	427,277	▲4.6%
(久留米)	302,061	296,450	288,906	280,033	▲7.4%
(鳥 栖)	69,173	70,327	70,961	71,130	3.0%
(小 郡)	60,355	60,616	60,381	59,780	2.2%
(基 山)	18,148	17,649	17,042	16,334	▲8.4%
長崎市	420,349	399,955	377,549	354,014	▲20.2%
熊本市	726,462	717,625	703,487	685,063	▲6.7%
大分市	464,570	459,234	450,108	437,766	▲7.7%
宮崎市	364,728	358,951	350,254	339,277	▲15.3%
鹿児島市	596,433	586,326	571,932	553,838	▲8.6%
九州(沖縄除く)	12,856,000	12,484,000	12,047,000	11,566,000	▲12.4%
全国	125,430,000	122,735,000	119,270,000	115,224,000	▲10.0%

(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「将来推計人口」

※ 伸び率は平成22年度に対する42年度の値

■ 九州各地域の年齢別人口割合 ■ (単位：人、%)

	人口	15歳未満	15～64歳	65歳以上
クロスロード	447,812	14.6	63.5	21.9
(久留米)	302,402	14.0	63.8	22.2
(鳥 栖)	69,074	16.7	63.4	19.9
(小 郡)	58,499	15.6	61.9	22.5
(基 山)	17,837	13.2	64.4	22.4
長崎市	443,766	12.5	62.4	25.0
熊本市	734,474	14.5	64.5	21.0
大分市	474,094	14.5	65.1	20.4
宮崎市	400,583	14.7	63.9	21.4
鹿児島市	605,846	14.1	64.7	21.2
九州(沖縄除く)	13,203,965	13.7	61.8	24.5
全国	128,057,352	13.2	63.8	23.0

(資料) 総務省「平成22年国勢調査」

3 産業・福祉

クロスロード地域は、農業産出額、製造品出荷額等が他都市に比べていずれも高く、バランスのよい産業構造となっています。

福祉面も充実しており、とりわけ地域医療は全国的にも恵まれた状況にあります。

■ 九州各地域の産業の状況 ■ (単位：百万円)

	農業産出額	製造品出荷額等	年間商品販売額
	H18	H22	H19
クロスロード地域	39,040	673,789	1,260,819
(久留米)	32,670	290,372	913,851
(鳥 栖)	4,060	293,667	252,662
(小 郡)	2,000	35,165	53,283
(基 山)	310	54,585	41,023
長崎市	7,430	602,466	1,147,133
熊本市	44,420	363,138	2,372,046
大分市	10,570	1,914,808	1,524,746
宮崎市	41,840	199,633	1,385,500
鹿児島市	11,060	341,026	2,536,515

(資料) 農林水産省「生産農業所得統計」、経済産業省「工業統計調査」「商業統計」

■ 九州各地域の就業者数 ■ (単位：人、%)

	就業者数	第1次産業	第2次産業	第3次産業
クロスロード地域	211,074	5.0	20.3	74.6
(久留米)	140,299	6.0	19.8	74.2
(鳥 栖)	32,194	2.2	25.3	72.5
(小 郡)	25,719	3.9	16.3	79.7
(基 山)	8,393	3.4	23.4	73.3
長崎市	199,972	2.1	18.9	78.9
熊本市	334,217	3.9	16.8	79.3
大分市	220,321	1.9	23.7	74.4
宮崎市	189,573	5.4	16.5	78.1
鹿児島市	279,730	1.4	15.2	83.3
九州(沖縄除く)	6,015,872	7.3	21.3	71.4
全国	59,611,311	4.2	25.2	70.6

(資料) 総務省「平成22年国勢調査」

■ 九州各地域の医療・福祉の状況 ■

(単位：箇所、人)

	病床		医師		保育所	
	病床数	10万人 当たり	医師数	10万人 当たり	保育所 数	待機児 童数
クロスロード地域	10,724	2,396.0	1,903	425.2	90	2
(久留米)	8,134	2,684.8	1,663	548.9	66	2
(鳥 栖)	1,225	1,810.2	124	183.2	11	0
(小 郡)	1,096	1,856.7	100	169.4	11	0
(基 山)	269	1,500.9	16	89.3	2	0
長崎市	10,446	2,354.7	1,870	421.5	100	70
熊本市	15,624	2,163.5	2,653	367.4	152	7
大分市	7,494	1,582.8	1,063	224.5	64	3
宮崎市	6,576	1,640.3	1,343	335.0	118	0
鹿児島市	13,016	2,157.0	2,154	357.0	94	359

(資料) 病床数は各市町調べ (22年4月1日現在)

医師数は厚生労働省「平成20年医師・歯科医師・薬剤師調査」

待機児童数は総務省「統計で見る市区町村の姿2011」

4 観光

23年3月に開業した九州新幹線の利用状況については、熊本や鹿児島に大きく差をつけられています。観光入込み客数は他の中核市とも互角に勝負していますが、宿泊には繋がっていません。

■ 九州新幹線主要駅の利用状況 ■ (単位：人)

新幹線駅名	1日平均利用者数
クロスロード地域(2駅計)	4,500
(新鳥栖)	1,800
(久留米)	2,700
筑後船小屋	750
新大牟田	800
熊本	13,550
新八代	1,950
川内	2,900
鹿児島中央	14,100

(資料) JR九州「23年4月～24年3月の平均利用者数」

■ 九州各地域の観光入込み客数と宿泊数 ■ (単位：千人)

	観光入込み客数	宿泊数
クロスロード地域	6,934	549
(久留米)	5,203	443
(鳥栖)	864	106
(小郡)	610	0
(基山)	257	0
長崎市	5,586	1,780
熊本市	5,482	1,907
大分市	—	710
宮崎市	6,009	1,036
鹿児島市	8,842	2,883

(資料) 各県調べ(平成21年度)

■ 各地域の主な観光・食資源 ■

	資源
クロスロード地域	《観光》石橋文化センター、九州歴史資料館、大興善寺、サガン鳥栖、筑後川花火大会、夢 HANABI、つつじマーチ、ラフォルジュルネ 《食・特産》とんこつラーメン、焼きとり、鴨料理、酒、フルーツ狩り、屋台、久留米餅
長崎市	《観光》グラバー園、平和公園、大浦天主堂、長崎原爆資料館、長崎新地中華街、稲佐山 《食・特産》ちゃんぽん、皿うどん、カステラ
熊本市	《観光》熊本城、水前寺公園、熊本県立美術館、熊本市動植物園、ロアッソ熊本 《食・特産》太平燕、熊本ラーメン、馬刺し、辛子レンコン
大分市	《観光》高崎山自然動物園、うみたまご、大分トリニータ、別府大分毎日マラソン 《食・特産》ふぐ、関アジ関サバ、かぼす
宮崎市	《観光》シーガイアリゾート、日南海岸国定公園 《食・特産》チキン南蛮、釜揚げうどん、日向夏
鹿児島市	《観光》桜島、鹿児島水族館、鹿児島城址、仙巖園 《食・特産》黒豚料理、さつま揚げ、かるかん

5 災害

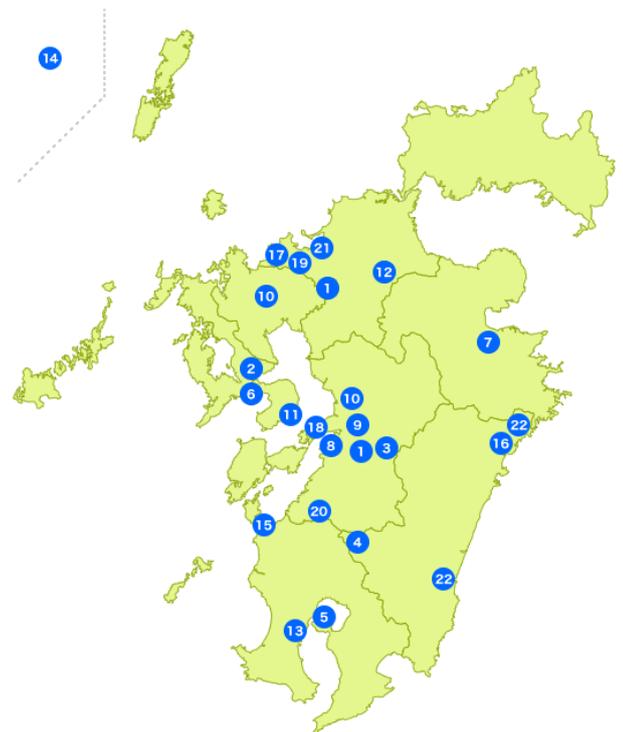
国土交通省九州地方整備局が整理した九州の主な災害は、下記のとおりです。

全域で比較的満遍なく発生してはいますが、クロスロード地域については、昭和28年の西日本大水害以来、大きな災害は発生していません。

■ 九州の主な災害 ■

No.	災害名	発生年月日
1	西日本大水害	昭和28年6月
2	諫早大水害	昭和32年7月
3	梅雨前線豪雨（熊本）	昭和38年8月
4	えびの地震	昭和43年2月
5	土石流災害（桜島）	昭和49年6月
6	長崎大水害	昭和57年7月
7	一般国道大分10号土砂崩落	昭和61年7月
8	一般国道熊本3号氷川橋流出	昭和62年7月
9	御船川激特	昭和63年5月
10	梅雨前線豪雨（筑後川、六角川、松浦川、白川）	平成2年7月
11	雲仙・普賢岳噴火活動による災害	平成3年6月
12	台風19号	平成3年9月
13	鹿児島水害	平成5年6月
14	対馬沖油流出	平成9年4月
15	出水市針原土石流	平成9年7月
16	台風19号（北川激特）	平成9年9月
17	福岡水害	平成11年6月
18	台風18号（高潮災害）	平成11年9月
19	福岡水害	平成15年7月
20	水俣市土石流	平成15年7月
21	福岡県西方沖地震	平成17年3月
22	台風14号	平成17年9月

（資料）国土交通省九州地方整備局「過去の災害」



過去の災害の主な被害発生箇所

6 住民意識

クロスロード地域の一体的発展を図るための基礎資料とするため、平成18年8月に地域の住民を対象として「久留米・鳥栖・小郡・基山の地域連携を考える住民意識調査」を実施しました。主な結果は下記のとおりです。

■ 住民が愛着を感じる地域 ■

	1位	2位	3位	4位	5位
久留米市民	福岡市	鳥栖市	小郡市	佐賀市	筑紫野市
鳥栖市民	久留米市	福岡市	基山町	小郡市	佐賀市
小郡市民	久留米市	福岡市	鳥栖市	筑紫野市	基山町
基山町民	鳥栖市	福岡市	久留米市	小郡市	筑紫野市

■ クロスロード地域の連携に期待すること ■

順位	内容	割合
1位	保健・福祉・医療サービスの共同実施	42.8%
2位	幹線道路など交通網の一体的整備	38.8%
3位	防犯対策	33.0%
4位	自然環境の保全や景観等の調整	24.6%
5位	雇用促進のための企業誘致	24.1%
6位	地元の中心部商店街の活性化	20.0%
7位	防災対策（緊急時の相互応援協定等）	18.7%

■ 今後重視すべき方向性 ■

順位	内容	割合
1位	自然環境の保全を重視したまちづくり	28.4%
2位	障害者や高齢者が安心して住める福祉重視のまちづくり	26.3%
3位	地域の特性を活かした商工業の発展	15.0%
4位	都市と農村が共存する田園都市の推進	13.1%
5位	芸術や文化活動の盛んなまちづくり	6.9%
6位	九州観光の玄関口としてのまちづくり	5.0%

【 参考データ 】

■ クロスロード地域にある地域資源 ■

区分	該当する地域資源
自然資源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筑後川、宝満川、耳納連山、九千部山、御手洗の滝 ・ 櫛並木、浅井の一本桜、森林つつじ公園、コスモス街道、久留米ツバキ園
歴史・人的資源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水天宮総本山、高良大社、梅林寺、大興善寺、七夕神社 ・ 久留米城跡、基肄城跡、草野の街並み ・ 青木繁、坂本繁二郎などの近代洋画家 ・ 田中久重、井上伝、石橋正二郎、高松凌雲 ・ 松田聖子、藤井フミヤ、田中麗奈、松雪泰子、長野久義
特産・食資源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 久留米餅、藍胎漆器、城島瓦 ・ とんこつラーメン、焼きとり、筑後うどん、うなぎ料理、屋台、鴨料理 ・ 酒（日本三大酒どころ）、ワイン ・ 農産物（米、巨峰、いちご、アスパラガス、富有柿等） ・ 久留米つつじ、ツバキ、シクラメン ・ ゴム製品（タイヤ）、薬品
サービス資源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石橋文化センター、石橋美術館、福岡県青少年科学館 ・ 筑後川花火大会、夢 HANABI、つつじマーチ、水の祭典、ラ・フォル・ジュルネ音楽祭 ・ サガン鳥栖（ベストアメニティスタジアム） ・ 舟運観光、フルーツ狩り、体験農園 ・ 高度医療施設、学術研究機関（大学、短大、高専）

筑後川流域クロスロードビジョン

発行 平成25年1月

筑後川流域クロスロード協議会（久留米市・鳥栖市・小郡市・基山町）

事務局：久留米市役所総合政策部広域行政推進課

〒830-8520 久留米市城南町15番地3